

学校概要

創立 45 周年	学校長 三瓶 徹	副校長 坂井 敦	学期 2 学期制	児童・生徒数 80 人
学級数 一般級: 6 個別支援級: 2			主な関係校: 上菅田小・新井小・上菅田中・新井中	

学校教育目標

知 自分らしさを発揮して、自ら学び続ける子を育てます。  
 徳 互いのよさを認め合える心豊かな子を育てます。  
 体 心や体を鍛え、自他の生命を大切にすることを育てます。  
 公 地域の人・施設・自然を大切に、共に生きる子を育てます。  
 開 社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。

学校の特徴

保土ヶ谷区の北、緑区との区境に接している。横浜市の中心部の高台にあり、校舎4階からは、みなとみらい方面からスカイツリーをはじめとした都心部まで一望できる絶好の場所にある。学校周辺部は畑や雑木林等に囲まれ、のどかな環境にある。年々児童数が減少し、各学年単級で、児童数も市内でも最少数の学校の一つとなっている。地域も協力的で、安全パトロール、図書ボランティアやフラワーボランティアを通して、児童の見守りや環境整備等に協力をいただいている。児童集団も明るく和やかな雰囲気である。単級のため、級友と仲よくしようとする意識が高い。学年を越えたたて割りでの活動も多く、成長過程の違う児童や他の国籍の児童と接する機会が多く、小規模校ならではの教育活動が行われている。

学校経営中期取組目標

- 「自分大好き 友だち大好き 進め! 笹山の子」育成のため、全職員の協働のもと、活力ある学校づくりをめざします。
- 学力向上のための学習環境を整え、子ども一人ひとりの学習意欲、学力が高まっています。
  - すべての子どもが安心して過ごせる生活環境を整え、子ども一人ひとりの自尊心が高まっています。
  - 創造性にあふれた学年、学級経営を推進し、魅力ある学校づくりを進めています。
  - 開かれた学校づくりを推進し、保護者、地域の信頼にこたえる学校づくりを進めています。

小中一貫教育の取組

上菅田・新井 ブロック : 上菅田中学校、新井中学校、上菅田小学校、新井小学校、笹山小学校

9年間で育てる子ども像	子どもの自尊感情を高め、学力、学習意欲の向上を図り、子ども一人ひとりの幸せの実現をめざす。
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校種を越えた授業参観を行い、9年間を見通した指導のあり方と、現状を検証する。</li> <li>・中学校の体験授業を6年生が行う。</li> <li>・旧小学校6年生担当者と中学校1年生担当者の懇話会をもち、情報交換を行う。</li> <li>・中学校入学前に、小中の担当者が情報交換を行い、中学校の学級編成資料とする。</li> </ul>

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	子どもが「わかった」「できた」ことが実感できる授業を通して、自分に自信をもち、考える力を伸ばし、主体的に学習に取り組む力を育てます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を明確にし、課題解決のために情報収集し、体験・検証、共有などを通して学び合い、振り返り自己の考えの形成に至る支援を行う。</li> <li>・チャレンジタイムを活用し、音読・漢字・短文づくり・計算等を意図的計画的に取り組み、基礎基本の力を育成する。読書タイムで新聞活用や並行読書を実施し、言語感覚を磨く。</li> </ul>
豊かな心	道徳の時間、様々な体験活動を実施し、友達を認め、集団の中で学ぶ力を高め、豊かな人間性、コミュニケーション力を育てます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の達成目標を職員が共有し、主体的にかかわり学びをつくるなかよし活動を展開する。</li> <li>・互いの意見を共有し、多面的・多角的に話し合い、より高い道徳的価値に気づき、その実現に向かう。</li> <li>・はまっ子読書ノート活用やペア読書等の読書活動を計画・継続的に実施し、読書習慣を形成し主体的な読書支援する。</li> </ul>
健やかな体	家庭と連携し、よりよい生活習慣の定着を図る取組を進めると共に、外遊びの奨励と一校一実践運動の「ラダートレーニング」を通して体力向上を図っていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会のテーマ「体力作り」に向けて、継続して取り組み、体力の向上・生活習慣の改善を目指す。</li> <li>・毎日朝の会で1分間ストレッチに取り組み、自己の体の調子に関心をもつ。</li> <li>・長縄や鬼ごっこの継続した取組を通して、自己やなかよし班の目標達成に向けて互いを思いやりながら運動する。</li> </ul>
教育課程・学習指導	小中9年間を見通した教育課程を確実に実施します。学習状況調査の結果を分析し、学年ごとの重点指導内容を明確にして取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況調査の分析を全職員で行い、課題の共有をし、課題解決に向けた具体的支援を検討する。</li> <li>・各校の課題解決に向けて小中一貫ブロック研で協議し、授業改善を図る。</li> <li>・中学校ブロック内で支援を共有し、学校や児童の実態に合わせて児童が主体・対話的に学習が深められるように支援する。</li> <li>・低・中・高ブロック研の充実を意図し、児童指導理解について共有し、単元開発や教材研究を行う。</li> </ul>
児童生徒指導	子どもからする挨拶の取組と笹山小ルールの徹底により、規範意識を高くもち、明るい学校生活を送れるようにします。だれもが大切な存在であることを、人権教育を通して指導します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童運営委員会での挨拶の必要性や効果についての話し合いをもとに、年間通して「あいさつ運動」に取り組み。</li> <li>・スクールカウンセラーとの連携のもとに、全教職員で児童の行動観察・情報交換を行い、組織で児童に寄り添った支援を行う。</li> </ul>
特別支援教育	特別な支援が必要な子どもについて、外部講師を招くなどして研修を深め、学校全体で適切な指導を行えるように取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育センターのコンサルテーション等、専門的な機関を活用し、児童へに支援について全教職員で共有する。</li> <li>・個別の支援計画をもとに全職員がかかわり、個に応じた配慮や支援を具体的に行う。</li> <li>・ねらいを明確にして個別支援級と一般級との交流学習を進め、相互の教育活動の充実を図る。</li> </ul>
地域連携	授業における地域教材の開発、地域人材との交流活動、行事での連携等を通して学校教育への理解を深め、よりよい協力関係を築いていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちとともに歩む学校づくり懇話会等を通して、地域と連携協働できる体制を継続する。</li> <li>・学校地域コーディネーターとの連携により、地域の教材を活かした単元開発を行い、社会への参画意識を醸成する。</li> <li>・児童の防災防犯意識を高め地域と主体的に関わる。</li> </ul>
いじめへの対応	子どもが安心して学校生活が過ごせるように、生活環境を整え、また、一人ひとりの子どもに対して、きめ細かな対応を行い、よりよい信頼関係を築く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童支援専任教諭が核となり職員研修や情報共有の機会を定期的に設定し、児童の行動の変化等些細な点も見逃さない感度を高める。</li> <li>・一斉アンケートやYPアンケートを複数回実施し、児童に寄り添った支援を組織的に行う。</li> <li>・人権教育や道徳教育をベースに差別やいじめを許さない学校・学級風土をつくる。</li> </ul>
人材育成・組織運営	限られた職員で学校教育を有効に運営するため、連携協働し、互いに高め合う組織を形成していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務会の機能を高め、ブロックや部会などチームで業務を遂行し、連携・協働し合う体制を作る。</li> <li>・ブロック研の充実を図り、児童指導理解について共有し、児童の実態に合う単元開発や教材研究を行う。</li> <li>・メンター研では、主幹やミドルリーダーが講師となり、校内での人材育成を図る。</li> </ul>